

迦多能阿米能迦具夜麻斗迦麻邇佐和多流久毘略

〔冠辭考〕ひさかたの 月あめ みまこ 雨

此外天の物にはみな冠らす

先ひとのいふことをいひて後にわが意はいはんそは万葉に此ことばを久堅能久方乃など

書しと神代紀に清妙之合搏 易重濁之疑 場 難故天先成而地後定とあるをおもひ合せ

て天のかたまり成たるは地より既に久しければ久く堅き之天といふといひ又天の成しは

右のごとくなれば地よりも久しき方てふ意ともいへり眞淵今思ふに上つ代にことばの下

に之といふは必體の語に有ことにて用の語にいふことなし然れば堅きとは用の語なれば

久しく堅き之といふ語は有べからず堅きをかたと略又久しき方のでふは之の辭はいふべ

けれど方てふ語のいひざま古への人の言とも聞えず且凡の語を神代の事にもとづきて意

得るは常ながら古への語のもとづき様はみやびかにしてやすらか也右の二つは意つたな

くしておもしろれたりよく古意古語を思はでゆくりなくおもひよれるものなるべしされば

年月におもひて漸おもしろしき事ありそは先久堅久方ともに例の借字とすさて天の形はま

ろくて虚らなるを匏の内のまろくむなしきに譬て匏形の天といふならんと覺ゆ續日本後

紀に興福寺の僧瓠葛の天と書しを荷田宇志の比佐加多乃阿米と訓れしぞ即是也ける瓠は

意にて圓匏もて譬ふ葛は借字にて象の意且ひさご禮記てふからぶみに云云大報天而主日

也略掃地而祭於其質也器用陶匏以象天地之性也物無可以稱其德てふも陶は土器なれば即

地に象り匏は空にみなりて内の虚なれば天の形に象といふ歟此外に天地の形に象るべき

物なければ注にもまかいへりけん唯天産の物もてする意のみならば徳とはいはじやと思

へばこれをも思ひ合すべき也且仁徳紀に全匏を宇都比佐基とよみ和名抄に沫雨を宇太加